

「新しい『公共』」について

生涯学習において「NPOとの協働」や「ボランティア活動の推進」など、個人やボランティア組織の積極的な参加を進めることが全国的な流れとなっています。また、「新しい『公共』」の観点、各県の生涯学習施策（生涯学習推進計画等）の中に取り入れられてきています。

今後の生涯学習の振興方策について（審議経過の報告）

（平成16年3月29日 中央教育審議会生涯学習分科会）関係部分

今後の生涯学習振興方策の基本的方向

2. 生涯学習を振興していく上で今後重視すべき観点

（2）生涯学習における新しい「公共」の視点の重視

平成15年3月の中教審答申の柱の一つとして、新しい「公共」の創造、国家・社会の形成に主体的に参画する日本人の育成ということが提言された。このように、現在、社会を形成する自立した個人の育成が課題であると同時に、自らが社会づくりの主体となって社会の形成に参画する「公」の意識を持つことが重要になっている。こうした「公」の意識は、個人的人格形成のすべての段階において、あらゆる機会の中ではぐくまれることが期待されるものである。生涯学習にあっては、個人の需要に基づく学習を進め、学習の成果を社会で生かそうとする中で、そのような意識を持つようになることも期待される。

また、社会の現状を見たとき、「行政が主導して住民に学びの機会を提供する」ということよりも、個人が主体となって社会に働きかけていくということが重要になってきている。

したがって、国、都道府県、市町村をはじめ、関係機関・団体等が生涯学習の振興を進めるに当たっては、国民各個人が可能な限り、職業を持つことなどにより、自立し、社会において健康で文化的に生涯を送ることが重要である。それとともに、社会を構成する国民として社会に主体的に参加・参画することにより、新しい「公共」を形成するという視点により社会をつくり、社会の活性化を図るということを目的とすることも重要である。すなわち、これまでの、ともすれば行政に依存しがちな発想を転換し、個人やNPO等の団体が社会の形成に主体的に参画し、互いに支え合い、協力し合うという互恵の精神に基づき、新しい「公共」の観点に視点を向けることが必要である。